

令和8年1月30日 (金)

読売新聞 朝刊・地域面都民

日本人の心のあり方や日本の伝統文化について考える「薬師寺まほろば塾 定例東京塾」(読売新聞社後援)が中央区の日本橋三越本店・三越劇場で開かれた。能登半島地震の復興支援として、石川県指定の無形民俗文化財「御陣乗太鼓」が披露された。

御陣乗太鼓は、戦国武将・上杉謙信の軍勢に、鬼の面などを身につけた村人が太鼓を打ち鳴らしながら奇襲を仕掛けたという逸話に由来する。一つの太鼓を使い、1人が基本リズムを打ち続ける中、演者が動き回り、交代で太鼓をたたく。

26日に開かれた定例東京塾では、同県輪島市の御陣乗太鼓保存会代表の樋谷博之さんが被災地の復興の現状について講演した後、樋谷さんら保存会の6人が演奏を披露。樋谷さんと塾長の大谷徹夫・薬師寺副住職による対談も行われ、約500人の参加者が聞き入った。

## 能登の心「御陣乗太鼓」響く 三越劇場でまほろば塾



定例東京塾で披露された御陣乗太鼓の演奏(26日、中央区で)＝薬師寺まほろば塾推進の会提供

今回の定例東京塾は5月26日、同じく日本橋三越本店・三越劇場で開かれる。講師にはシンガー・ソングライターの大谷美子さんを招く。問い合わせは事務局(0742・33・8942)へ。